

〔太平記二十〕直冬西國下向事

左兵衛督○足利直備後ノ鞆ニ座シ給テ、中國ノ成敗ヲ司ドルニ○下略

〔武家名目抄職名二十七上〕長門探題又稱中國探題

見聞雜錄云、兼ては禁中より信長方被仰下候は、天下の支配いたし候共、中國十六ヶ國の儀は、毛利家を以て探題とすべし。略下

〔蓮步色葉集志〕四國伊興、阿波、讀岐

〔書言字考節用集數量〕本朝四國伊豫、阿波、讀岐、土佐

〔古事記上〕次生伊豫之二名島、此島者身一而有面四、每面有名、故伊豫國謂愛上比賣、下效此也三字以音讀

岐國謂飯依比古、粟國謂大宜都比賣、此四字以音土佐國謂建依別

〔今昔物語三十〕通四國邊地僧行不知所被打成馬語第十四

今昔佛ノ道ヲ行ケル僧三人伴ナセテ、四國ノ邊地ト云ハ、伊豫、讀岐、阿波、土佐ノ海邊ノ廻也、其ノ僧共其ヲ廻リケルニ、思ヒ不懸ズ山ニ踏入ニケリ。

〔玉葉和歌集二十〕そのかみよりつかうまつりなれけるならひに、世を遁れて後も賀茂の社に参りけるを、年たかくなりて、四國のかたへ修行しけるが、又歸りまゐらぬこともやとて、仁安三年十月十日夜、参りて幣まゐらすとて、たなをの社のもとにて、静かに法施奉りける程木の間の月ほのぐにて、常よりも神さびあはれに覺え侍りければ、

西行法師○歌

〔吾妻鏡〕元暦二年○文治三年元年、三月九日壬辰、熊野別當湛増、依廷尉○經引級承追討使去比渡、讀岐國、今又可入九州之由有其聞、四國事者義經奉之、九州事者範頼奉之處、更又被抽如然之輩匪啻失身之面目已似無他之勇士、人之所思尤爲恥云云

〔和爾雅地理〕西海道九箇國損軒曰、此稱九州、或稱筑紫、又